

カーフハッチ・ペン

生まれてすぐの子牛は、病原菌に対し抵抗性が低く、下痢や肺炎になりやすいものです。特に成牛と一緒に場所での飼養は、病原菌の感染の確率が増加します。

適切なカーフハッチやペンの利用は、病原菌の感染防止に非常に有効です。しかし、管理や設置場所が悪いと“環境の悪い箱”に子牛を閉じこめることになります。

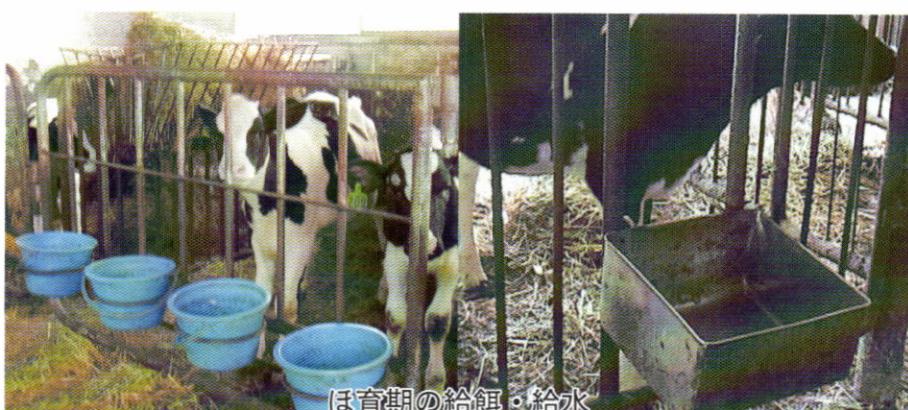
カーフハッチ・ペンを利用するためには、設置場所、構造・寸法、給餌・給水施設、衛生管理などを十分に考慮する必要があり、ここでは現地事例をもとに紹介します。



各施設の設置場所



衛生管理



各施設の設置場所

育成牛の施設の配置は、農場内での各施設との関係を考慮した上で決定されます。その際、重要なことは作業動線（牛の移動、観察、各種作業のつながり）と環境（地盤、排水、日照、風向き）です。

農場内のレイアウト

作業動線を考慮したレイアウトは労働を効率化します。

育成牛は発育段階に応じ、次々と場所を移動していきます。そのため、施設間の移動を短い距離で行えることが重要です。また、健康状態や発情の観察、人に慣れさせるためにも、人間が通る機会が多い場所への設置が望ましいです。ほ乳、飼料給与、除糞など毎日行う作業が効率よく行えるよう、関係する施設との距離が重要です。

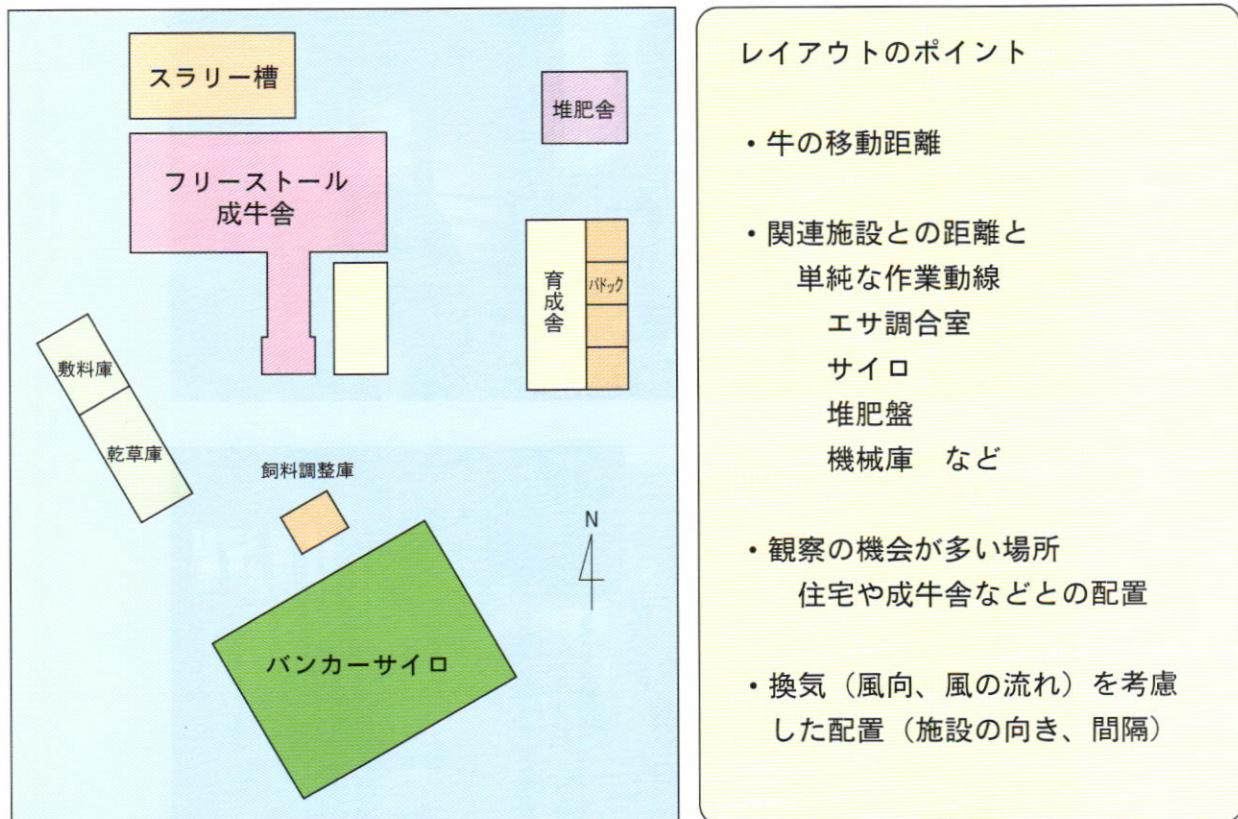
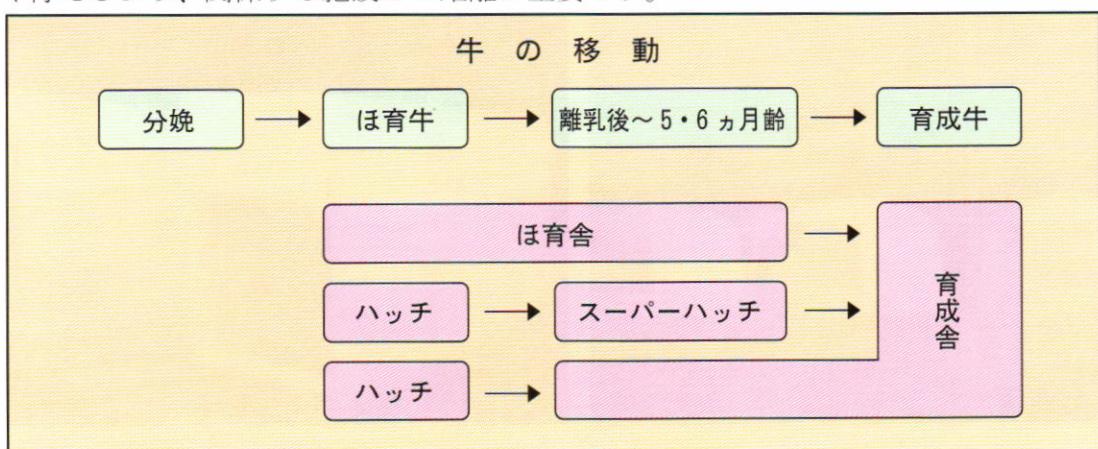


図1 農場内のレイアウト例